

報告

天文教育フォーラム報告 ～研究者とのコラボレーションによる事業企画～

石田光宏（横浜市立戸塚高等学校）、松本佳也（広島市交通科学館）
鷹野重之（九州産業大学）、田崎文得（国立天文台）

1. はじめに

2021年9月13日（月）16:30～18:00、日本天文学会 2021年秋季年会（オンライン会場）において、天文教育フォーラムが開催された（図1）。本フォーラムは日本天文学会と共催で天文学会の年会の会期中に行われ、秋は天文学会が中心に、春は本会が中心になって運営している。今回は、「研究者とのコラボレーションによる事業企画」というテーマで開催され、約170名の参加があった。本稿では今回の天文教育フォーラムの内容を簡単に紹介する。

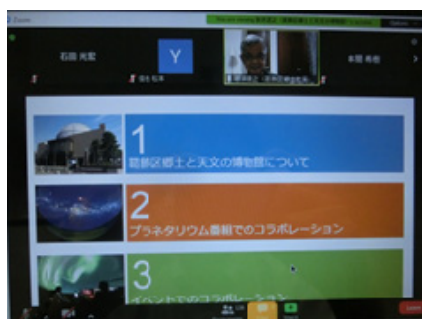


図1 講演（オンライン）の様子

・本間希樹氏（国立天文台）

2. 今回のテーマと目的

天文学者と科学コミュニケータの「コラボレーション」の必要性が重視されるようになって久しく、さまざまな社会教育機関で研究者の協力を得た企画が行われている。学問の専門分化が進み、利用者の望むクオリティも高まっている昨今、専門家との共同事業としての企画展示やコンテンツの必要性は以前にも増して高まっている。今回のフォーラムは、あらためて研究者と科学コミュニケータのコラボレーションをテーマに、天文学をより正しく魅力的に世間に広める取り組みのありかたを議論すべく、企画された。そのため、企画・監修の経験豊富な招待講師をお招きしてお話を伺うとともに、参加者全体でディスカッションを行うことも目的とした。話題提供者は以下の3名の方である（講演順）。

- ・新井達之氏（葛飾区郷土と天文の博物館）
- ・寺藪淳也氏（合同会社ムーン・アンド・プラネッツ代表）

3. フォーラムの流れ

まずは天文学会教育理事の富田晃彦氏から挨拶があった。次に、司会進行の天文教育フォーラム実行委員松本佳也氏から今回のフォーラムの趣旨について説明があり、3名の招待講演とディスカッションが行われた。最後に、天文学会天文教育委員の内山秀樹氏（静岡大学）より今回のテーマにも関連する日本天文学会講師紹介プログラム及び監修者紹介プログラムについての紹介があり、散会となった。

3.1 講演① 新井達之氏

「プラネタリウムにおけるコラボレーション」

新井氏からは、天文学者に監修等を依頼するお立場から、博物館におけるコラボレーション事例について講演頂いた。プラネタリウム番組における、全天X線画像などの天文学最前線とのコラボ例、宇宙誕生から広がる過

程を音で表すというユニークな取組みなどの紹介があった。このような例を交えながら、漠然と協力を依頼するのではなく、「何を」「どのように」伝えたいかを丁寧に説明することが大事であることを強調された。さらに、「監修」というよりアイデアを出しあえる「コラボレーション」がよいという意見で講演を締めくくられた。

3.2 講演② 寺菌淳也氏

「もし、あなたが『依頼』されてしまったら…? ~様々な分野とのコラボレーションのための基礎知識と心得~」

寺菌氏からは、依頼を受けて協力するお立場から、監修を依頼された時の心得について講演頂いた。番組であれ本であれ、依頼元が思い描いているストーリーがあるので、何を求めているのか必ず確認すること、依頼元が過去にどのような情報発信を行ってきたか確認し、納得して参加することなど、丁寧に話された。最後は見せるエキスパート（依頼元）と分野のエキスパート同士が得意な部分を尊重していくべき、というメッセージでまとめられた。

3.3 講演③ 本間希樹氏

「EHT の事例に見る様々なコラボレーション」

本間氏からも、依頼に協力するお立場から、世界中を歓喜の渦に巻き込んだブラックホール撮影におけるご経験を中心に講演頂いた。まず、コラボレーションがうまくいくには、発信者、協力者、受信者の関係を意識することが大事だと述べられた。発信者と協力者は同じ目標をシェアし、受信者が何を期待しているか意識することがうまくいく秘訣だと強調された。そして監修等をする上で、専門的知識をしっかりと提供すること、普段からの人とのつながりは大事であるというメッセージ

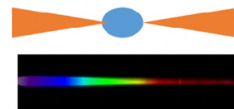
で講演を締めくくられた。

3.4 ディスカッション

3名の方の講演を受け、様々な議論がなされた。コラボという観点からは、小惑星衝突、スーパーフレアなど地球の影響にも関連する研究やSDGsとのコラボもやっていくべきなのではという意見が出された。また、新井氏の講演にあったような音楽とのコラボ例など、コラボで新しい学問、研究分野になっていくのもよいという建設的な提案も出された。若手からは、ギャラの交渉はどのように行うのかという、本フォーラムでしか交わせないような議論（質問）もあり、講演者、聴衆者ともに大変有意義な時間を過ごせた。

4. おわりに

今回のテーマは、「コラボレーション」。本フォーラムもまさに講演者と企画者によるコラボの一例であり、聴衆の方々には天文学に関する共同作業の一端をお伝え出来たのではないだろうか。



石田 光宏

(Be 星 さそり座 δ 星が 10 年ぶりに極大へ！)